糖尿病網膜症とは

糖尿病網膜症は糖尿病の三大合併症の1つです。緑内障に次いで、日本人の失明の原因となっています。
糖尿病で血糖値の高い状態が続くと、網膜の細かい血管が傷ついたり詰まってしまい、視力や視覚に異常が見られるようになっていきます。

原因

網膜には光や色を感じる神経が多数通っています。血糖値が高い状態が続くと、網膜の血管が傷つき、血管が詰まったり変形したり、出血するようになります。すると、網膜は酸素不足になり、神経線維が障害されます。この段階ではほぼ自覚症状はありません。
酸素不足がさらに進行すると、足りない酸素を補うために網膜や硝子体に新しい血管を作ります。しかしこの血管はもろく、破れて硝子体が出血しやすくなります。 さらに新しくできた膜で硝子体と網膜が癒着するようになり、網膜が膜に引っ張られて網膜剥離を起こすことがあります。この段階では、飛蚊症や視力の低下が起こるようになります。

分類

単純糖尿病網膜症

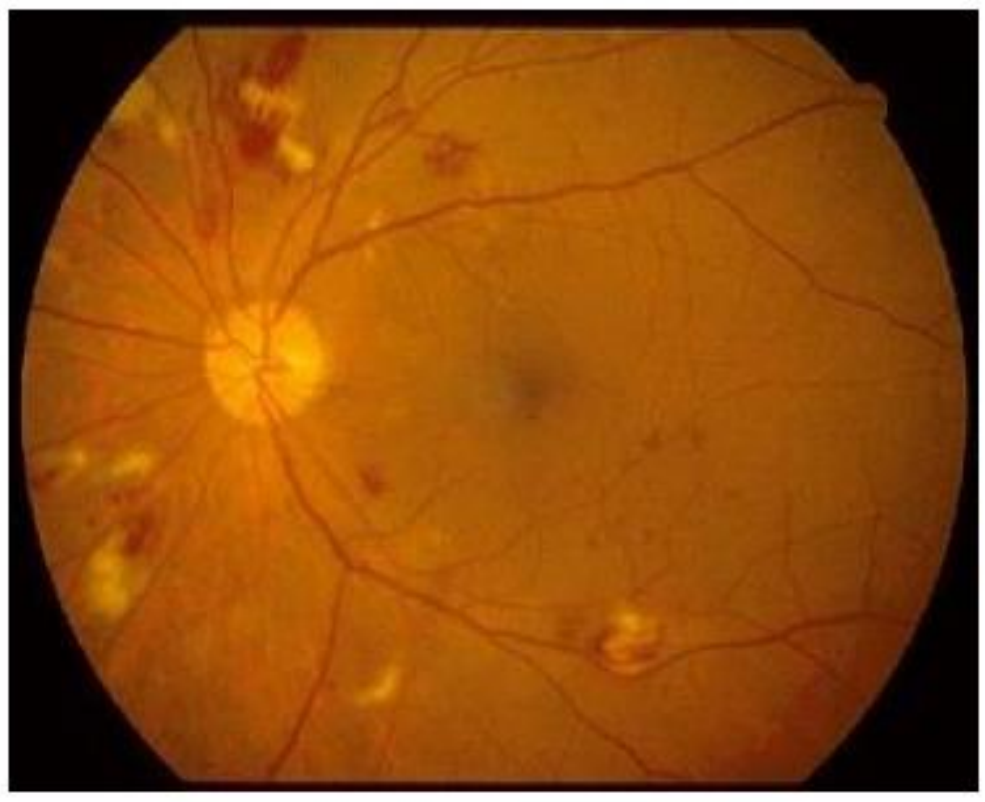
症状：小さな眼底出血や白斑がみられますが、自覚症状はありません。

治療：必要ありませんが、定期的な経過観察が必要です。

増殖前糖尿病網膜症

症状：小さな眼底出血に加えて、網膜の虚血変化が出てきます。視力が低下しないことも多く、自覚症状がない場合があります

治療：放置すると増殖網膜症に進行しやすいため、虚血で酸素や栄養不足になった部分の網膜に、レーザー治療をおこなう必要があります。



増殖糖尿病網膜症

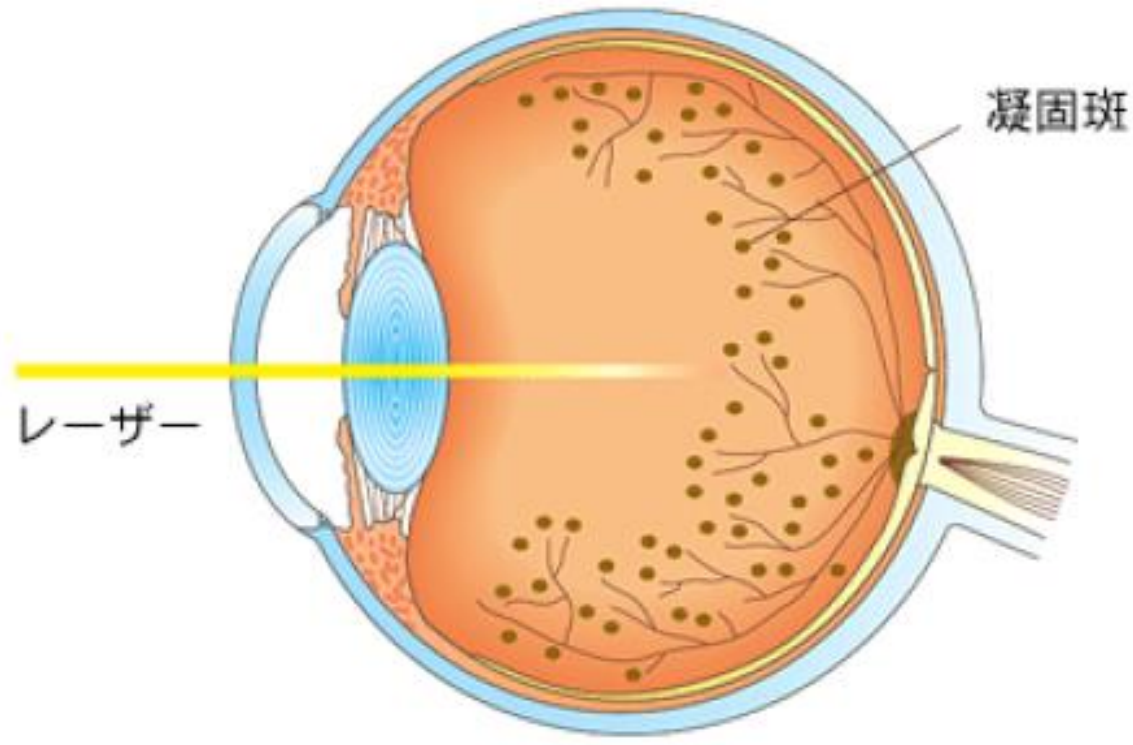
症状：眼内に広く出血する硝子体出血や増殖膜ができ、それによる牽引性網膜剥離、難治な血管新生緑内障などさまざまな状態を引き起こします。

治療：レーザー治療はもちろん必要ですが、進行を阻止できない場合は硝子体手術が必要です。失明にいたるケースもあります。

レーザー治療について

■レーザー光凝固術

レーザー光凝固術は、網膜にレーザーを照射して、新生血管の発生を防ぐ方法です。また、出血や白斑も治療できます。この治療で視力が回復するわけではありませんが、網膜症の進行を阻止することができています。



- 外来通院で治療可能です
- 点眼麻酔をして、1回15～30分程度の時間で終了します
- 進行の段階によって、数回に分けて治療します